

# 平成28年度 学校マネジメントシート

学校名（四日市中央工業高等学校）

## 1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○「四中工はあなたの能力を伸ばします！」の指導方針のもと、学習者の視点に立って、全職員の共通理解を深め、学校全体で安全で安心な教育環境をつくり、生徒・保護者・地域の方々に信頼される工業高校を目指します。
(2)	育みたい 児童生徒像	○基本的な生活習慣が確立し、基礎学力やコミュニケーション能力の定着のもと、将来のグローバル社会においても対応できる実践能力や課題解決力を備えている。
	ありたい 教職員像	○企業が望む人材を育てるため、教員自らの授業力の向上に努める。 ○協働による取組により組織力を高めることが出来る。

## 2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;生徒&gt; 分かりやすく丁寧な指導を望み、社会で役立つ知識や技術を身につけたい。</p> <p>&lt;保護者&gt; 生徒が希望する進路実現が果たせるよう、しっかりと指導してほしい。</p> <p>&lt;企業・大学&gt; 基本的な生活習慣を身につけ、基礎学力やコミュニケーション力を持ち、社会人として組織の中で能力を発揮出来る力を身につけてきてほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>&lt;家庭&gt; 安全で安心な教育環境のもと、生徒の能力を伸ばして欲しい。</p> <p>&lt;企業・大学&gt; 挨拶や礼儀などの基本的な生活習慣を確立させて欲しい。</p> <p>&lt;地域社会&gt; 生徒の地域社会における規律遵守と地域行事への参加等協力が欲しい。</p>		<p>&lt;家庭&gt; 学校の教育方針への理解と協力、及び躰等での家庭教育との連携が欲しい。</p> <p>&lt;企業・大学&gt; 継続的な受け入れをして欲しい。技術指導等外部教育の面で協力して欲しい。</p> <p>&lt;地域社会&gt; 地域が学校と手を携え、子どもたちを育てるという意識を持って欲しい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健委員会などを軸に、学校全体で生徒の健康や保健・衛生管理等により一層力を注いで貰いたい。</li> <li>・授業公開をとおして見えてきた教室の学習環境を改善するため、物的問題や教室スペースの問題に対応していく必要がある。</li> <li>・学科を越えた全教員からの声掛けや人間的成長を意図した面接指導は、生徒たちにとって大きな励みとなった。</li> <li>・ここ数年増加傾向にある女子生徒の学校生活に支障が起きないように配慮願いたい。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>授業規律の確立が進んできたが、より一層充実に努めていく。聴く力をつけるため、聴いたことを記録させる指導が必要となっている。</p> <p>組織の中での対応力やコミュニケーション力を養うと同時に、生徒一人ひとりが基礎学力を向上させることが必要となっている。</p>	

学校運営等	部活動の活発な学校として中学校や地域、企業からの評価は高い。工業高校生として専門分野に精通し、グローバル化等の社会の変化に対応できる力を身につけるとともに、部活動をとおして磨かれる強い精神力と身体を兼ねそなえた職業人を育成するため、組織力向上の取組を充実させる必要がある。
-------	--

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が授業規律を遵守し、基礎学力の向上に資するしくみを構築します。</li> <li>生徒の基本的な生活習慣を確立し、挨拶や時間の遵守など社会生活での対応力を育てます。</li> <li>低学年次からのキャリア教育に取り組み、生徒に組織や社会における対応力、コミュニケーション力を身につけさせ第1志望の合格内定率90%を目指します。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に提供する授業内容を工夫改善し、学力向上に繋げるため、小グループによる授業公開等を行い、教員の授業力向上を図る取組を行います。</li> <li>全職員が学校の課題を共有し、組織的、協働的な取組が出来る集団づくりを進めます。</li> <li>教職員が、意欲的に業務に取り組み、充実感を得ることができるよう、組織の目的を共有する話し合いの機会をつくとともに、教育活動全般の刷新に努め、業務内容のスリム化や課外活動の指導の工夫等により、総勤務時間の縮減を図ります。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する項目 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の5分間トレーニングのバージョンアップに取り組みます。</li> <li>【活動指標】生徒の実態に応じた内容での実施</li> <li>【成果指標】年度末調査における教職員によるプラス評価70%</li> </ul>	生徒の実態に応じた取組ができた、概ねできた【77%】	◎
キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>低学年次からキャリア教育に取り組み、組織の中での対応力やコミュニケーション力を養う。</li> <li>【活動指標】多様な進路ガイダンス等の実施</li> <li>【成果指標】生徒の進路実現に対する満足度90%</li> </ul>	低学年次からのキャリア教育の組織的な取組ができた、概ねできた【78%】	◎
生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>自転車通学マナーの向上や挨拶指導、服装指導を年間通して取り組みます。</li> <li>【活動指標】日常の指導に加えて学期に1回の強化取組を実施</li> <li>【成果指標】年度末調査における教職員によるプラス評価60%</li> </ul>	日常的生徒指導と定期的強化指導の取組ができた、概ねできた【75%】	※
人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権感覚豊かな学校環境づくりと仲間づくりを進めます。</li> <li>【活動指標】人権講演会や人権LHR、中央祭等学校行事の活用</li> <li>【成果指標】年度末調査における教職員によるプラス評価70%</li> </ul>	人権感覚溢れる学校環境づくりの取組ができた、概ねできた【87%】	◎

#### 改善課題

##### (1) 学習指導の充実

生徒の学習習慣の定着と学力保障の観点から取組を行ってきた朝トレであるが、徐々に見え始めた成果を今後も維持しさらに効果をあげるための工夫を施すなど、次のステップに進む時期に来ており、そのための検討が必要である。

(2) キャリア教育の充実

様々な進路ガイダンスを実施することで、進路希望が多様になっている生徒への対応を図ってきたが、すべてが消化しきれていない生徒の状況を把握し、対応していく必要がある。

(3) 生徒指導の充実

マナーについては、交通マナーに限らず、社会一般のモラル、常識を備えた人づくりに係る問題が根底にあると考える。そのため根本的な次元からの課題改善がなければ、本来の解決には結びつかず必要不可欠である。

(4) 人権教育の充実

人権の尊重、他者への配慮、差別の否定などについて生徒は知識としては良く理解しているが、全ての言動が理解されている通りに出来るよう指導していく必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する項目 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働による取組と課外活動等の指導の工夫により、総勤務時間の縮減を図ります。</li> <li>【活動指標】 必要に応じた検討協議を実施</li> <li>【成果指標】 年度末調査における教職員によるプラス評価 60%</li> </ul>	協働による取組と総勤務時間縮減の取組ができた、概ねできた【60%】	◎
チームワークの向上・意欲の増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>四中工の未来を語る会等を始め職員による交流会を開催し、改善活動に努めます。</li> <li>【活動指標】 年2回の実施</li> <li>【成果指標】 参加職員の満足度 70%</li> </ul>	職員交流の場をとおした改善活動の取組ができた、概ねできた【57%】	
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教育活動を地域等外部へ発信し、学校に対する理解を深め、地域との結びつきを充実させます。</li> <li>【活動指標】 年5回の発信活動</li> <li>【成果指標】 地域の満足度 70%</li> </ul>	教育活動の発信による地域連携の取組ができた、概ねできた【72%】	※

改善課題

(1) 組織運営

年間を通して、対話を重視し、協議検討をとおして相互理解を深められるよう努めた。一方、工業高校の特色化を図るために、学科横断的取組や連携したものづくりをさらに進める必要がある。

(2) チームワークの向上・意欲の増進

夏休み等長期休業を利用したベンチマーキングを行い、本校の取組の改善に取り入れる計画であったが予定どおり実施できなかったため、理由や課題を洗い出し改善に繋げる必要がある。

(3) 地域との連携

学校での生徒の取組やものづくりの成果を、よりの確に発信し、地域への情報提供に係る工夫改善を施して、地域のニーズに対応できる学校づくりをする必要がある。

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<p>生徒は、全体的に落ち着いており生徒指導上も一定規律の遵守が確保されている。そのため、学力向上に向けた取組やキャリア教育の系統的な取組が可能になって来ている。出口部分での保障についても、就職や進学ともに順調であることは評価委員の方々にもご理解いただいている。しかし、一方で今年度本校への入学希望者数を振り返ってみると、満足できない結果が出ており、そのことについての意見交換や情報交換が成された。社会の不透明さ、先行きの不安定さからくる要因により、社会に関心が持てず、夢や希望もなく、やりたいことが具体的に見えてこない子どもたちが増えつつある。そのような中で、工業高校を卒業して地元に残り地元のために働くことがいかに大切であり、重要な社会貢献であるかということ子どもたちやその保護者に十分理解してもらい、工業高校を拠り所としてくれるような、魅力ある学校づくりを行うことが次の大きな課題であり取組目標となる。</p>
---------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 学習指導の充実については、その成果を確実にするために、朝トレ実施期間を延長し、内容を見直すなど生徒の成長に沿った改善策を施していく。</li><li>(2) キャリア教育については、生徒にとって将来必ず求められる学力と人間関係形成力は必須であり、そのための指導及びメニューの精査が必要であり、生徒の実態を見極めたうえで、実態に即した指導方法と指導内容の再考を一層進めていく。</li><li>(3) 生徒指導の充実については、禁止事項の単なる強制だけではなく、そもそもの訳や禁止の理由に一步二歩も踏み込んだ指導を行い、生徒の心に迫る教育が必要である。時と場所を問わず、全教員の共通意識のもとでの生徒指導が不可欠である。それが実現可能な教員集団であるために必要とされる意思疎通形成の場をつくりあげ、より良い学校環境づくりを進めることに繋がる。</li><li>(4) 人権教育の充実については、様々な差別に共通する人の心の問題や心の在り方を探究する人権教育であるべきである。年々変わる生徒の実態や考え方を教員が良く観察し、対話をとおして生徒理解に努め、生徒のところに迫る人権教育の在り方を追究していく必要がある。</li></ol>
学校運営についての改善策	<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 組織運営については、より一層協働意識を高め、お互いが支え合う職場環境をつくることで、総勤務時間の縮減と教員の健康維持に繋がる。また、ノークラブデーの他に、帰宅推進デーなどを定期的に設ける必要がある。</li><li>(2) チームワークの向上・意欲の増進については、特に今年度転入した教員の本校に対する意見や印象を聴く機会を設けることが遅くなったため、来年度は早い時期に実施し、改善に役立てたい。また、意欲を高めるような学校環境づくりや土壌の醸成に努める創意工夫が必要である。</li><li>(3) 地域との連携については、地域に根ざした学校づくりのために、これまでの本校の取組以外に、地域の新たなニーズを知ること、連携してできることを把握し、新たな地域連携の形づくりを進める必要がある。</li></ol>